

令和7年3月22日

保護者各位
生徒の皆さんへ

日本大学中学校
校長 中園 健二

令和6年度自己点検・評価の実施結果について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動及び学校運営にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、本校においては、毎年度、教育活動等の学校運営の状況について、自らで点検・評価を行い、魅力ある学校づくりのため、改善・改革に取り組むことを目的に自己点検・評価を実施しています。自己点検・評価では、「組織的な自己点検・評価」，「教員個人による自己点検・評価」及び「生徒による授業評価」を実施しています。

「生徒による授業評価アンケート」については、全校生徒の協力を得て実施しており、令和6年度は令和6年10月に実施いたしました。このアンケートは、「授業改善のための問題発見の機会」，「教員が自らの努力の成果を確認する機会」を設けることにより、生徒の視点や理解に合わせた授業となるよう、更なる改善を図ることを目的としています。

また、自由記述形式の「学習活動及び学校生活全般についての意見や要望」の欄を設け、生徒からの具体的な意見や要望にも対応できるよう構成されております。

このたび、「生徒による授業評価アンケート」結果を含む令和6年度自己点検・評価結果について、次のとおり取りまとめましたので、生徒の皆さん及び保護者の皆様にお知らせいたします。本校においては、この結果を基により一層の教育力向上を図ってまいります。

今後ともご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1 自己点検・評価概要

本校では教育スローガン“Aiming high!”並びにサブスローガン“SHINKA!”に基づき、全ての教職員、生徒及び保護者、さらには、受験生とその保護者等に至るまで、機会あるごとにあらゆる手段を通じて目指す生徒像を明確に示し、その浸透に努めています。

令和2年度末に策定した新たな本校の中長期計画となる「日本大学高等学校・中学校基本計画（令和3年度～令和13年度）」を組織的かつ体系的に推進し、絶えず検証しながら具体的な施策につなげていくものとする。“Road to 100th”というキャッチフレーズの下、本校が目指す方向性について広く学内外に周知することが、着実な実行に向けた公約という認識で推進している。令和6年度が同計画の策定から4年目に当たることから、各項目についてリフレクションして、継続して検討課題を洗い出し、精査した結果内容を全教職員で共有し共通理解に努めています。

「日本大学高等学校・中学校創設100周年記念行事プロジェクト」については、本校創設100周年に向けたマイルストーンを設定し、計画的かつ具体的に進めることができるよう努めています。特に、新たなキャンパスの構想に関しては、より具体的な検討を進めていく重要な年度として位置付け、その過程においては、“生徒ファースト”であることを常に念頭に置き、生徒が主体的に学び体験することのできる未来型の施設設備を構想できるように取り組んでいます。

2 「生徒による授業評価アンケート」

① 生徒自身に係る質問

(1) 令和6年度結果

〈A〉学習に関する設問

①【授業参加】「自ら積極的に授業に参加している」についての設問では、全体で約88%の生徒が「あてはまる（以下A）」又は「大体あてはまる（以下B）」と回答しており、多くの生徒が真面目に授業に取り組んでいる様子が見受けられます。

②【授業準備予習・復習】「予習など必要な準備をして授業に臨んでいる」について43%の生徒が、「授業の復習、試験の振り返り等を行い、次につなげる学習をしている」については75%の生徒がA又はBと回答しており、復習に力を入れている生徒が多いことが分かります。③【対話的な学び】「新たな考え方を発見できるように、積極的に先生に話したり、友達と意見交換や議論をしたりしている」(52%)、④【深い学び】「授業の目標や計画を十分に理解している」(84%)、「様々な事柄に対して課題を見出し、課題の追及や解決に取り組んでいる」については76%の生徒がA又はBと回答しております。

〈B〉生活・課外に関する質問

①【学校生活】「校則やマナーを守って生活している」(95%)②【学校生活】「学業と部活が両立出来ている」についても83%の生徒がA又はBと回答しています。明るく楽しい学校生活を過ごしている生徒たちの様子が伺えます。また、③【コミュニケーション】「友人関係がうまくいっている」については94%がA又はBと回答しており、おおむね友人関係は良好のようです。しかし、悩みを抱えている生徒も少なからずいるようで、教員や友人、保護者に相談できる環境づくりを継続して行ってまいります。また、メールやSNS、インターネットを利用したコミュニケーションツールの利用は、相手の気持ちへの配慮を欠くおそれがあります。家庭と連携し、今後も継続的に指導してまいります。④「学校生活が充実している」についての設問では95%がA又はBと回答しております。

②授業に対する評価

(1) 令和6年度結果

〈A〉プレゼンテーション能力に関する設問

①【説明】「授業の説明はわかりやすい」(91%)、②【話し方】「話し方は明瞭で聞き取りやすい」(93%)、③【進度・内容】「シラバスの内容に沿って授業が行われている」(96%)の3つの設問において、A又はBと回答した者が91%以上と良好な評価となっています。しかし、この結果に満足することなくより充実した授業を目指してまいります。

〈B〉コミュニケーション能力の設問

①【関係】「質問への対応がわかりやすい」(92%)、②【熱意】「授業に対する熱意が感じられる」(93%)の2つの設問では、生徒と教員間の円滑な交流と相互の信頼関係の構築度の指標となるものです。それぞれA又はBと回答した生徒が92%以上であり、良好な評価となっています。今後も熱意のある分かりやすい授業を継続できるよう、更なる向上を目指して努力してまいります。

〈C〉学習指導に関する設問

①【板書・資料】「板書や資料は見やすく工夫されている」については、A又はBと回答した生徒が72%と回答しています。②【興味・関心】「興味・関心が持てる授業が行われている」(90%)、③【対話的な学び】「生徒同士での協働の機会があり、考えを広げ深めることができる」(87%)、④【効果】「この授業を受けて学力や技術の向上を実感している」(90%)、⑤【深い学び】「知識を相互に関連付

けてより深く理解できる機会がある」(91%)がA又はBと回答しています。さらに、課題の内容を工夫し生徒たちの興味や好奇心を生み出せるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習を働きかけ、生徒が「楽しい・わかった」と実感できるような授業を目指して教材研究を行い、質の高い授業の展開に努めてまいります。

3 学習活動及び学校生活全般についての意見や要望

アンケート用紙裏面の意見や要望欄には、様々な意見や要望がありました。主な記述は、次のとおりです。

- 質問に丁寧に答えてくれる先生の授業は理解が深まる。
- ロイロノートで個々の先生へ質問でき、アドバイスがもらえるのはとても良い。
- 希望生徒への補習・講習は、今後も継続してほしい。
- スクールバスの本数を増やしてもらいたい。
- 自習スペースを増やしてほしい。
- 食堂を復活させてほしい。
- 部室棟のエアコンの設備を良くしてもらいたい。

これらの記述内容についても検討し、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育を推進するため、一層の改革を進めてまいります。

令和7年度におきましても、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以 上